

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



を活用した学習の事例（指導案等）



概 要	
学年・教科・単元等	小学校1年生・国語・「うみへのながいたび」
活用方法	4つの学習過程を単元計画及び本時の展開に位置付けた。また、児童が見通しを持って充実した言語活動を行い「主体的・対話的な学び」の手立てとして活用した。
成果等	児童はペア学習で相談や話し合いをしながら、わからない言葉や難しい表現を自分なりに解釈し、言い換えることができるようになった。

※指導案や板書計画、ワークシート等は次ページ以降に掲載しています。

1. 単元名 『うみへのながいたび いいかえカルタをつくろう』

教材名 「うみへのながいたび」

2. 育成を目指す資質・能力

意味のわからない言葉を自分なりに解釈して言い換える力（思考力、判断力、表現力等 C－エ）

言葉や表現に親しみ、自分の考えを伝え合おうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

3. 指導事項に合致した言語活動とその特徴

上記の資質・能力を育成するために、『いいかえカルタをつくろう』という言語活動を行う。いいかえカルタを作るためには、意味のわからない言葉を自分なりに解釈して言い換える力が必要である。これらの能力を身に付けさせながらカルタを作っていく。

4. 単元について

(1) 児童の実態

省略

(2) 教材観

本単元は、「うみへのながいたび」の教材を用いて学習していく。「うみへのながいたび」は、作家の今江祥智氏が執筆をしており、白熊の子育てや成長について文学的な表現を多く用いて書かれている。本学級の児童の生活語彙にはない言葉や表現が多く、内容の大体を理解することは難しいと考えられる。教科書では、「うみへのながいたび」の内容の大体を理解するために、写真の助けにして読み進めていくようになっている。1年生にとって難しい表現が多いが、写真や動作化などで難しい表現の理解を助けながら、自分なりの解釈で言い換えをしていくのに、「うみへのながいたび」は適している教材であると考えられる。

(3) 言語活動でつけさせたい力について

本単元では、『いいかえカルタをつくろう』という言語活動を行い、意味のわからない言葉を自分なりに解釈して言い換える力をつけていく。

一次では、言い換えカルタとはどういうもので、どのような行程でカルタを作っていくのかの見通しをもたせる。見通しをもつ中で、言い換えカルタを作って遊びたいという思いを引き出ししていくようにする。

二次では、場面ごとにわからない言葉や難しい表現を抜き出し、その中から自分の好きな言葉や表現を選んで言い換えをしていく。7つの場面があるので、1つの場面で1枚、計7枚のカルタを作る。

三次では、2年生を招待してカルタ大会を行う。カルタのやり方は、教材文から抜き出した言葉を詠み、絵札を取った後に、自分が言い換えた文を説明する。「上手だね」「そのように読んだ

様式2

「なんだね」などの反応をもらうようにする。また、意味のわからない言葉を自分なりに解釈して言い換える力は、これからの読む活動で毎回使っていき、「わからない言葉に出会ったときはカルタ作りのときに学習したように前後の文脈から自分なりの解釈で言い換えて考えていけばいいんだ」とメタ認知できるようにしていく。

(4) 指導観

児童の実態、教材、言語活動でつけさせたい力を受けて、本単元では次のような工夫をして指導を行っていく。

まず、児童自身に自分だけのカルタを作るということを十分に意識させ、とても難しいことを学習するから、できあがったらすごいことだよと言って意欲を高めていく。

次に、どのようにすれば言葉を言い換えられるかを考えさせていく。言い換えるには、動作化を試みたり、写真を助けにしたり、言葉の前後から想像したりすることが考えられる。これらの言い換えのポイントを押さえて、言い換えるときにも、このように考えればよいとわかるようにしていく。

わからない言葉や難しい表現を言い換えることはとても難しい言語活動である。「わからない」というだけで自信がなくなってしまう。読むことが嫌いになってしまうのは、一番避けたいので、今回の学習では、正確な意味で言い換えることを求めず、自分なりに言い換えることができることを目標にして学習を進めていく。また、読解力や意味理解の程度が同じくらいの子どもを隣同士の席に配置し、ペア学習を基本の学習形式として、相談や話し合いをしながら言い換える言葉を探させていくようにする。

5. 単元の目標

- ・わからない言葉を自分なりに解釈して言い換えることができる。(思考力、判断力、表現力等 C—エ)
- ・言葉や表現に親しみ、自分の考えを伝え合おうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

6. 単元の指導計画 (12時間扱い)

次	時数	学習内容	・評価規準 【評価の観点】(評価方法)
一次見出す	1	○教師の見本を見て、カルタを作ることを知り、学習計画を立てて見通しをもつ。	・何をどのように作るのかがわかり、見通しをもとうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】(観察・発言)
	2	○全文を読み、わからない言葉や難しい表現を探す。	
二次	3	○どのようにしたら言い換えることができるかを考える。	・どのようにすれば言い換えることができるかを考えようとしている。【主体的に学習

様式2

自分で取り組む・広げ深める		<p><いいかえのポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・動きをやってみる。 ・写真をよく見る。 ・言葉の前と後ろをよく読む。 ・友達と相談する。 	<p>に取り組む態度】(発言・ノート)</p>		
	4	○1の場面のわからない言葉や難しい表現を言い換えて、カルタを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない言葉を自分なりに解釈して言い換えている。【思考・判断・表現】(作品) ・言葉や表現に親しみ、自分の考えを伝え合おうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】(発言・観察) ・以下7の場面まで同じ。 		
	5	○2の場面のわからない言葉や難しい表現を言い換えて、カルタを作る。			
	6	○3の場面のわからない言葉や難しい表現を言い換えて、カルタを作る。			
	7	○4の場面のわからない言葉や難しい表現を言い換えて、カルタを作る。			
	8	○5の場面のわからない言葉や難しい表現を言い換えて、カルタを作る。			
	9	○6の場面のわからない言葉や難しい表現を言い換えて、カルタを作る。			
	10	○7の場面のわからない言葉や難しい表現を言い換えて、カルタを作る。			
	三	11		○学級でカルタの練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や表現を言い換えて、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】(観察) ・言葉や表現を言い換えて、自分の考えを伝えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】(観察)
	次	12		○2年生を招待してカルタ大会をする。	
ま					
と					
め					
あ					
げ					
る					

7. 本時の指導 (7 / 12)

(1) 本時の目標

- ・4の場面のわからない言葉や難しい表現を、自分なりに解釈して言い換えることができる。(思考力・判断力・表現力等 C-エ)
- ・言葉や表現に親しみ、自分の考えを伝え合おうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

様式2

(2) 展開

過程 時配	学習内容と学習活動 ・予想される児童の発言等	○指導 ・支援 ◇評価	備考
導入 10分	1 これまでの学習を振り返り、本時の学習問題を立てる。 ・カルタを作る。	○本時ではどんな活動をするのか、学習計画を見て考えるように促す。	教師見本前時まで
見出す	いいかえカルタをつくるには、どのようにしたらよいだろうか。		
	2 どのように言い換えたらいいかを思い出す。 ・動きをやってみる。 ・写真をよく見る。 ・言葉の前と後ろをよく読む。 ・友達と相談する。	○言い換えのポイントを思い出させ、黒板に掲示していく。	の掲示物
展開 15分 自分で 取り組む	3 4の場面を音読し、どの言葉や表現を言い換えるかを考えて決める。決めたら読み札に言葉や表現を書く。 ・たびだった。 ・こまかなゆきがとぶ ・ただただまっすぐにあるく。 ・はげましながらあるきつづける。	○4の場面を音読するように指示を出す。 ○どの言葉や表現を言い換えるかを考えて決めるように促す。 ○決めたら読み札に言葉や表現を書くように促す。 ・決められない児童には、どの言葉だと絵が思い浮かぶかを尋ね、その言葉を勧める。	
	4 決めた言葉や表現を、どう言い換えるか考える。 ・いった。とおくへいった。 でかけた。 ・ちいさなゆき。ちいさなゆきがふつている。 ・とにかく。しんけんに。 ・おうえんしながら。がんばれといいながら。	○隣の人と話し合いながら考えるように声をかける。 ・動きをやってみたり写真を近くで見たりする時は、席を立ってもよいことを伝える。 ・ホッキョクグマの絵本やホッキョクグマの親子が歩いている動画を用意しておき、参考にできるようにしておく。 ◇わからない言葉や難しい表現を、自分なりに解釈して言い換えている。【思考・判断・表現】(作品)	
10分 広げ深める	5 言い換えた言葉や表現を、友達に紹介する。 ・こういうふう考えたんだけど、どうかな？ ・いいと思うよ。わかりやすいよ。 ・私のとはちょっとちがうね。	○自由に歩き回り、友達に自分のカルタを紹介するように指示を出す。 ○紹介の仕方のモデルをデモンストレーションし、どのように紹介すれば良いかを示す。 ○友達の考えを聞いて、いいなと思ったら直してもよいことを伝える。	

様式2

<p>まとめ 10分 まとめ あげる</p>	<p>6 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言い換えカルタが作れた。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と相談したらできた。 ・ 動きをやってみたらできた。 ・ 前と後ろの文章をよく読んだらできた。 ・ 写真をよく見たらできた。 	<p>◇言い換えカルタを友達に紹介して、自分の考えを伝えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】（観察）</p> <p>○今日の学習では何ができるようになったかを発表するように促す。</p> <p>○今後、わからない言葉や表現に出会った時、頭の中で別の言葉に言い換えられるように、どのように読んだらよいかをメタ認知させる。</p>	
------------------------------------	--	--	--

(3) 板書計画

<ul style="list-style-type: none"> ・ ③ うごきをやってみた。 ・ しゃしんをよくみた。 ・ まえとうしろをよくよんだ。 ・ ともだちとそうだんできた。 	<div style="border: 1px solid black; background-color: #e0e0e0; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p>4の場面の全文</p> </div>	<p style="text-align: center;">④</p> <p>うみへのながいたび</p> <p>いいかえカルタをつくるには、どうしたらよいだろうか。</p>
--	---	---

<p>絵を描く</p>	<p>こまかなゆきがとぶ</p>
-------------	------------------

	<p>ちいさなゆきがつよく ふく</p>	
--	--------------------------	--

べつのことばで
←
いいかえると…

	<p>こまかなゆきがとぶ</p>	
--	------------------	--

様式2

(5) ワークシート

--

--	--	--

くしあしはだ
↑
いなかえるよ...

--	--	--